

週報 みえぎよれん

- 浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌 -

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

平成 28 年度三重県海苔漁期前研修会 - 9/2(金)松阪市・華王殿 -



三重県漁業協同組合連合会と三重県黒のり養殖研究会は 9 月 2 日、松阪市の華王殿に於いて、平成 28 年度三重県海苔漁期前研修会を開催した。

当日は、桑名から鳥羽までの生産者および漁協職員、国・県・市町担当者、資材メーカー等関係者ら約 130 名が参加したほか、三重県海苔問屋協同組合の若手経営陣らも来賓として出席した。

研修会では、三重漁連購販事業部のり海藻課より「今漁期の対策等について」、同指導部より「浜の機能再編広域プラン」、そのほか、三重県鈴鹿水産研究室の山田研究員より「今漁期の生産対策及び研究課題等について」の講演が行われた。

午後からは三重県地域産学官連携水産研究連絡会議と共催し、第 7 回みえ水産フォーラムが開催され、「三重の漁場環境が育む黒ノリを消費者へ」をテーマとして、伊勢湾の漁場環境、新品種の作出等

の技術動向、経営状況、流通や販売等に関する講演が行われた。

また、特別企画として「黒のりクイズ大会」のコンテストが開催され、正解数の多かった上位 3 名が特別賞として豪華賞品を獲得した。

みんなも解いてみよう！黒ノリクイズ

- ① 2 月 6 日は海苔の日であるが、海苔の日は、701 年 2 月 6 日に制定された日本最古の法律である大宝律令に、海苔についての記述があった事に由来する。
- ② 「ノリ」の語源は、ぬるぬるするという意味の「ヌラ」がなまったものといわれている。
- ③ 黒ノリの糸状体を発見したのは、イギリス人のドリユー氏である。
- ④ 黒ノリの人工採苗を日本で初めて成功させたのは、熊本県水産試験場の瀬川 宗吉氏である。
- ⑤ 黒ノリ養殖が本格的に始まったのは、豊臣秀吉が養殖を奨励したためといわれている。
- ⑥ 三重県で最初に黒ノリ養殖が始まったのは、桑名地区である。
- ⑦ 海苔にはビタミン A が多く含まれており、その量は卵 1 個分に相当する。
- ⑧ 海苔の色素成分 (赤、青、緑) のうち、緑の色素は熱に弱い。
- ⑨ 日本人と韓国人は、海苔を消化できる特殊な腸内バクテリアを持っている。
- ⑩ 黒海苔は、日本・中国・韓国の 3 か国だけで生産されている。
- ⑪ 平安時代中期の法典「延喜式」によると、海苔は板海苔に加工されて食べられていたと記載されている。
- ⑫ コンビニでおにぎりの販売を最初に始めたのは、ローソンである。
- ⑬ 「アサクサノリ」という和名をつけたのは、日本藻類学の祖といわれる岡村 金太郎 氏である。
- ⑭ 昔、海苔は高級品であったため、海苔を取り扱う方たちの羽振りがよかったことから、「黒い札束」と呼ばれていた。
- ⑮ 海苔の重量の約 80% はタンパク質である。

①○ ②○ ③○ ④× ⑤× ⑥○ ⑦○ ⑧× ⑨× ⑩×
⑪× ⑫× ⑬○ ⑭○ ⑮×

平成 28 年度資源管理研修会
- 9/6(火)松阪市・のり流通センター -



三重県資源管理協議会と三重県漁業協同組合連合会は 9 月 6 日 (火)、松阪のり流通センターにて平成 28 年度資源管理研修会を開催した。

この研修会は本県周辺水域の水産資源の維持・増大と安定的な漁業生産の確保を図ることを目的に行われている。

冒頭、永濱会長(三重県農林水産部水産資源課長)のあいさつの後、資源の減少が顕著になってきている「アサリ資源回復への取組み」をテーマに講演が行われた。

同会では関係漁業者の自主的な取組みによって資源管理を実施していくことが重要な課題としている。

【講演内容】

1. 愛知県のアサリ資源管理の取組
～六条潟の稚貝利用を中心に～
講師：愛知県水産試験場漁業生産研究所
黒田 伸郎 氏
2. 熊本県におけるアサリ資源管理の取組み
講師：熊本県水産研究センター浅海干潟研究部
内川 純一 氏
3. 三重県におけるアサリの資源管理について
講師：三重県水産研究所鈴鹿水産研究室
羽生 和弘 氏
4. 乱獲はなぜ防げないのか？
～実験経済学から考える～
講師：三重大学大学院生物資源学研究科
准教授 松井 隆宏 氏

全国漁業協同組合学校
2017 年度 学生 募集

全国漁業協同組合学校(千葉県・柏市)は、2017 年度学生募集を下記の通り、実施することを発表した。

1. 募集人員
第 1 回 現職者 5 人、一般 20 人
第 2 回 現職者若干、一般若干
(いずれも男女共学)
 2. 入学資格
現職者
勤務先の JF グループ等の推薦を得て、卒業後は復職が確約され、次のいずれかに該当した者のうち選考に合格した者
①高等学校以上の卒業生で、JF グループに勤務中の者
②中卒で JF グループに 3 年以上勤務中の者
一般
下記の入学条件に該当し、選考に合格した者
【JF 系統団体等推薦入学】
①大学・短大・専門学校卒業生
(卒業見込者含む)
②高等学校卒業生(卒業見込者)は、高等学校の成績の 5 段階の合計が 3.0 以上、3 年間の欠席日数が原則 15 日間以内の者。
※JF 系統団体等の推薦が受けられない場合は最終学歴の学校推薦(中学校除く)。学校推薦も受けられない場合は同校校長が特に認めた場合、保護者推薦を受け付ける。
 3. 願書受付期間
第 1 回 10/1(土)～ 11/7(月)
第 2 回 12/1(木)～ H29/1/16(月)
 4. 提出書類
①入学願書、②成績証明書・調査書、③健康診断書、④推薦書
 5. 入学選考料 3 万円
 6. 応募先(※速達書留)
出身地域の JF 漁連・府県 JF 宛
 7. 合格発表
第 1 回 12/1(木)、第 2 回 H29/2/9(木)
- 問合せ先
全国漁業協同組合学校
TEL04-7144 -8125 FAX04-7145-500
★詳細は必ず HP または上記でご確認ください。

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。